

平成26年度第1回林業研究所試験研究評価委員会評価結果

試験研究評価委員会における評価委員（学識経験者2名、林業経営者1名、建築設計士1名）の評価結果の概要は以下のとおりです。

中間評価対象課題

ヒノキ低密度植栽における育林経費の低減に関する研究

評価平均点

16.00点

【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： 期待以上(1)、ある程度得られた(2)、あまり得られていない(1)

目的達成の可能性： きわめて高い(1)、高い(2)、低い(1)、

課題の取り扱い： 飛躍的に取り組みを強める(2)、取り組みを強める(2)

【主な意見】

- ・実験の条件設定が複雑すぎる。検証する要因をしばった方がよい。
- ・結論を導くにはもう少し時間が必要。後継事業についても検討すべき。
- ・つる植物による被圧はないのか。

オオイチョウタケ施設栽培技術の開発

評価平均点 17.25点

【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： 期待以上(2)、ある程度得られた(2)

目的達成の可能性： きわめて高い(2)、高い(2)、

課題の取り扱い： 飛躍的に取り組みを強める(1)、取り組みを強める(3)

【主な意見】

- ・子実体発生のキーは温度だけか。土壌水分は関係ないのか。
- ・人工栽培には大きな容器が必要か（それだけ広いスペースが必要か）
- ・バーク堆肥は成分が不安定ではないのか。

低エネルギー消費型きのこ栽培システムの開発

評価平均点 17.00点

【評価項目】

進捗状況： ほぼ予定どおり(4)

得られた成果： 期待以上(2)、ある程度得られた(2)

目的達成の可能性： きわめて高い(1)、高い(3)、

課題の取り扱い： 飛躍的に取り組みを強める(1)、取り組みを強める(3)

【主な意見】

- ・培地の成分は食味にも影響するのか。

- ・培養温度は一定にする必要があるのか。
- ・ グルカンを含むというが、抽出成分についてはしっかり確認する必要がある。

事前評価課題

スギ・ヒノキエリートツリーのコンテナ苗生産技術に関する研究

評価平均点 12.50 点

【評価項目】

- 必要・緊急性： 緊急に必要(2)、緊急に必要ではない(2)
- 新規独創性： 高い(2)、低い(2)
- 目的達成の可能性： 高い(2)、低い(2)
- 期待される効果： ある程度期待できる(3)、あまり期待できない(1)

【主な意見】

- ・ コンテナの単価はいくらか。
- ・ コンテナ苗の導入によって再造林が進むとは思えない。
- ・ 実験の条件設定が複雑すぎる。他機関の成果を整理して、条件をしばった方がよい。

スギ中径材の強度及び含水率の推定方法に関する研究

評価平均点 14.75 点

【評価項目】

- 必要・緊急性： 緊急に必要(3)、緊急に必要ではない(1)
- 新規独創性： 高い(2)、低い(2)
- 目的達成の可能性： きわめて高い(1)、高い(3)
- 期待される効果： ある程度期待できる(4)

【主な意見】

- ・ ヤング係数に関して、「高い」と「低い」の線引きはどこでやるのか。
- ・ 類似の研究は行われているのか。
- ・ 丸太の含水率、ヤング係数は実際にどうやって計るのか。

スギ厚板を用いた新たな床工法の開発

評価平均点 15.75 点

【評価項目】

- 必要・緊急性： きわめて緊急に必要(1)、緊急に必要(3)
- 新規独創性： 高い(3)、低い(1)
- 目的達成の可能性： 高い(4)
- 期待される効果： ある程度期待できる(4)

【主な意見】

- ・ 得られた結果は屋根の水平構面にも適用できるのか。
- ・ ヒノキについても調べてはどうか。
- ・ 幅はぎ材についても評価ができれば成果の使途が広がると思う。

木質外壁の経年劣化に関する調査

評価平均点 14.50 点

【評価項目】

必要・緊急性： 緊急に必要(3)、緊急に必要ではない(1)

新規独創性： 高い(2)、低い(2)

目的達成の可能性： 高い(4)

期待される効果： ある程度期待できる(4)

【主な意見】

- ・色の変化はどう評価するのか。
- ・建物周囲の状況（土、コンクリート、草の有無）、木の使い方（木表を表面に出すか否か）、釘の材質も劣化に関わる条件として評価すべき